学校だより　No.８　令和7年7月3日

とうざん

有田町立有田小学校 校長 山口 英一

有田小 HP の QR コードは こちらです。

梅雨明け　熱中症予防

6月27日に気象庁から、九州北部地方が梅雨明けしたとの発表がありました。統計史上最も早い梅雨明けで、平年より22日、去年より20日早く、梅雨の期間が19日間で最も短かったとのことです。今後は、高気圧におおわれ、各地で気温が上昇する見込みだそうです。

学校では熱中症警戒アラートが発表されると、外での活動の短縮や中止などの対応をとっています。熱中症の予防には水分補給が欠かせません。今後も、少し多めのお茶などの準備をよろしくお願いいたします。

さて、7月の全校朝会で次のような話をしました（かなり省略しています）。

6月は、「感謝」の意味と「ありがとう」の気持ちを伝えましょうと話しました。

7月は、「情けは人のためならず」という諺について話をします。「情け」っていうのは、「親切にすること」や「思いやり」のことです。では、「人のためならず」とは？ 実は、よく間違った解釈をされます。それは、「人に親切にしても、その人のためにならないから、やらないほうがいい」というものです。本当は、「情けは人のためだけではなく、巡り巡って自分にも返ってくる」、つまり、親切にすることは、回り回って自分のためにもなる、という意味なのです。これは、逆のことも言えると思います。人に嫌なことをすると、回り回って自分に返ってくるということです。

もう一つ、「その言葉、一番聞いているのは誰？」という話をします。みんなは、誰かに「そんなこともできんと？」とか「そがんとも分からんと？」とか言われたことがありますか？ 言われるとどんな気持ちになりますか？ きっと、嫌な気持ちになったり、悲しくなったりすると思います。みんなに考えてほしいのは、そういう嫌な言葉を一番たくさん聞いているのは誰か？ ということです。答えは、実は言った自分の耳です。例えば、自分が「バカ」って誰かに言ったとします。そのとき、その言葉は相手の耳にも届きますが、一番近くでハッキリ聞いているのは自分の耳です。

だから、嫌な言葉をたくさん言っていると、その度に自分の心も少しずつ嫌な気持ちになってしまいます。「だいじょうぶ？」「ありがとう！」などの優しい言葉や思いやり言葉を使うと、それも一番たくさん聞いているのは自分の耳です。だから、自分の心もだんだん温かく優しくなっていきます。

みなさんには、自分にも相手にも優しい言葉を使える人になってほしいと思います。自分の言葉が自分の心をつくります。そして、それが有田小学校をもっと温かい場所にしてくれると思っています。

合言葉「有田大好き!! 進んで学ぶ さわやか有田っ子」の実現に向けて、少しでも子どもたちの印象に残る話ができるよう、自分自身も様々な視点で考えていきたいと思っています。

風鈴絵付け体験授業

6月25日、6年生が風鈴絵付け体験をしました。今年度も松尾嘉之さん（松尾錦工房）が指導してくださりました。子どもたちは真っ白な風鈴に思い思いの絵を描きました。松尾さんの話では、風鈴の絵付けは、皿などの絵付けと比べても難しいとのことでした。でも、1年生のときからやきものづくりに取り組んでいる子どもたちは、慣れた手つきで躊躇することなく筆を進めていました。取材に来られていたいくつか報道機関の方々も、子どもたちの様子を見てビックリされていました。子どもたちの生き生きとした活動の様子は、その日のサガテレビや NHK で放送されました（7月1日現在、サガテレビと NHK 佐賀放送局のホームページで見ることができました）。

今後、「有田館」に展示され、観光客の方にも見ていただくことになっています（完成後～8月31日までの予定）。お時間がありましたら、足をお運びください。松尾さん、ご指導ありがとうございました。

ドイツ教室

6月24日、2学期のマイセン市とのオンライン交流に向けて、3年生の子どもたちが、ドイツやマイセン市、アリタ小学校マイセンなどについての学習を始めました。有田町商工観光課のテオマンさんが分かりやすく説明してくださるので、少しずつマイセン市について知ることができています。また、簡単なドイツ語も学んでいます。

7月1日には、前日にマイセン市から有田町に来られたリンダさんが来校されました。子どもたちは前回覚えたドイツ語を使って自己紹介をしました。コミュニケーションのコツは、間違いを恐れず積極的に話すことです。その点では、子どもたちはしっかりできていたと思います。

今後、オンライン交流に向けてどのように意識が高まっていくのか、楽しみにしているところです。

防煙教室

6月26日に6年生が「タバコの害」についての授業を受けました。学校医の蒲地英之先生が、タバコの害について詳しく話をしてくださりました。子どもたちにとって、副流煙や受動喫煙など初めて耳にした言葉があったり、タバコを吸ったときの変化などを写真や映像などで実際に見たりして、その害について理解することができました。以下は、ある児童の感想です。

> 私は〇年生のときに、1回タバコを吸ってみたいと思って、お母さんに言ってみると怒られてしまいました。吸ってはいけない理由をそのときは教えてもらえなくて、今まで何でだろうと思っていました。でも、今日のお話を聞いて、理由が「害になる」ということが分かって、大人になっても吸わないようにしたいです。…（後略）…。　※ 一部修正

ひょっとしたら大人になってタバコを吸う人がいるかもしれません。でも、どこかで今日の授業を思い出して、自分の健康について考えてくれたらと思っています。

白川の～ ♪

学校では、入学式や始業式などの行事、また、全校朝会などで校歌を歌います。学校生活の中で一番歌った歌は、小学校の校歌だと思います。保護者・地域の皆さんも、大人になった今でも母校の校歌が口ずさめるのではないでしょうか。

さて、入学式の祝辞の中で立林 PTA 会長さんが2～6年生に向けて「校歌の歌詞の ♪ さかまく怒濤夢みつつ 水底清い心もて ♪ という歌詞の意味をこの機会に考えてみてください」という話をされました。有田小学校校歌の歌詞(1番)は次の通りです。

白川の瀬音に乗ったあの声は　九十九渓(つづらたに)湧く真清水が
さかまく怒涛夢みつつ　水底清い心もて　明るい顔に歌う声

歌詞の中のことばの意味を調べてみると、「瀬音」とは「浅瀬を流れる川の音」、「九十九渓」とは「白川の異名、狭小な土地だったことから」、「真清水」とは「澄みきった清らかな水」、「さかまく」とは「川の流れに逆らうように波が巻き上がる」、「怒涛」とは「はげしく打ちよせる波、 また、比喩的に大きな影響力をもつ時代の激しい流れ」…、という意味になります。ここまでで、歌詞の意味をどのように捉えられたでしょうか？ 人それぞれに解釈があると思いますので、ここでは自分の考えを書かないでおきます。

有田小学校の校歌ができたのは1952年(昭和27年)。作詞が松尾米次さん、作曲が陶山聡さんです。作詞をされた松尾米次さんは伊万里市の方で、第15代有田小学校校長であり、戦前・戦後の激変する社会環境の中で学校教育の振興に尽力されたそうです。作曲をされた陶山さんは鳥栖市の方で、地元で校長を務められ、多くの校歌を作曲し、福岡・佐賀・長崎の3県だけでも160曲もあるとのことです。

歌詞の意味を考えていると、当時の教育への熱い思いが、この校歌の中に込められていることを感じます。変化の激しい現代社会を生きている子どもたちにも通じているものがあるのかもしれません…。